

国連大学協力会 2006 年度事業報告

FY2006 Operational Report

【基本方針】〔 Basic guidelines 〕

2006 年度における国連大学の諸活動が、“ 持続可能な環境・開発・平和 ” を重視していること、及び“ 持続可能な教育 ” について新たに重点をおいたこと等を尊重し、06 年度における国連大学協力会の事業計画は、国連大学のそれらの活動を資金的・人的に支援することとし、さらに国連大学のそれらの活動に対して、我が国国民の関心を高め、支持を強化するための事業を積極的に展開しながら、本法人の公益事業の活性化を図ることを基本方針とした。

【事業報告】〔 Operational report 〕

寄附行為の変更〔 Devised statute of jfUNU 〕

国連大学の活動が、近年、世界的ネットワークを通じて地球規模のものへとよりいっそう進展していることに伴い、従来、我が国内に限定されていた本法人の国連大学に対する支援活動を、国連大学の海外におけるプロジェクト等に対しても行えるよう変更した。また本法人の活動内容として、国連大学を支援するために必要な調査・研究及び研修を行うことも明記した。

寄附金募集活動〔 Donation fund raising activities 〕

1. 寄附金受入れ総額〔 Total amount of donations received 〕

06 年度において、本法人が受け入れた寄附金の総額は、25,715,000 円であり、その内訳は別表のとおりである。

2. 国連大学「サステナビリティ プログラム」支援募金計画（新規） 〔 Fund-raising programme for United Nations University “Sustainability Programme” (new) 〕

国連大学の活動が、“ 持続可能な環境・開発による、持続可能な社会の実現 ” に資する研究及び研修活動をテーマとしていることに鑑み、そのことを強力に支援できるよう、国連大学「サステナビリティ プログラム」支援募金計画を策定した。

3. ホームページによる「支援キャンペーン」の実施（新規） 〔 “Support campaign” undertaken by the use of jfUNU website (new) 〕

国連大学の活動が世界の平和構築に不可欠なことについて、広く国民の理解を得るために、国連大学の実施している各種プロジェクトを具体的に紹介した。

4．賛助会員会費〔Supporting member dues〕

国連大学の活動を継続的・安定的に支援するために、「賛助会費」による寄附金募集は極めて重要であるので、ホームページによる広報の他、国連大学が開催するグローバル・セミナーやシンポジウム、各種イベント等の機会を活用して、関係書類を頒布し、賛助会員の募集に努めた。06年度において、賛助会費収入は867,300円であり、会員数は個人会員174名、法人会員1社であった。また01年度より募集してきた「個人会員」に加え、06年度より「法人会員」制度を開始した。

5．一般寄附金〔General donations〕

随時に寄附金を受け入れる「一般寄附」は、国連大学協力会における寄附金額の大部分を占めている。一般寄附の重要性に鑑み、国民の個々人が気軽に寄附できる体制を検討した。

6．新たな寄附金制度の導入（新規）

〔Introduction of new donation system “Bequest Programme” (new)〕

賛助会費及び一般寄附以外の新たな寄附金受け入れ制度として、信託銀行2行において「遺贈」制度を導入した。

国連大学への助成活動〔United Nations University support activities〕

国連大学への助成に当たっては、国連大学が真に必要なとする分野の活動について、事前に国連大学関係者との十分な連絡調整のもと、助成対象事業などを検討するとともに、具体的助成事業の選定・助成額配分などについては、「国連大学協力会助成・寄附諮問委員会」による十分な審議を経て行った。06年度の国連大学への助成金額は、合計29,950,000円である。助成対象となった国連大学のプログラムは以下のとおりである。

1．国連大学の研究活動に対する助成〔Support for UNU research activities〕

06年度において国連大学が重視している“持続可能な環境・開発・平和”に関する研究活動に対し重点的に助成した。

(1) 環境と開発分野〔Environment and Development Category〕

アジア沿岸水圏における環境監視と管理プロジェクト（継続助成）

〔Environmental Monitoring and Governance in the Asian Hydrosphere (ongoing support)〕

日本、中国、韓国、ベトナム、フィリピン、マレーシア、タイ、シンガポール、インドネシア、インド、パキスタン等の沿岸水圏（海水、河川水、湖沼）の汚染を防止するため、各国の公的機関や大学の環境汚染化学物質の分析能力向上を目指して行う調査・研究である。ダイオキシンやPCBなどの残留性有機汚染物質の検査技術の向上を図り、アジア水圏の良好な環境監視を目指す事業。

ゼロ・エミッションフォーラム（継続助成）

〔Zero Emission Forum (ongoing support)〕

環境の質の保全と持続可能な開発を同時に達成するために、これまでの生産のあ

り方と消費形態のあり方を見直し、資源利用の最適化及び廃棄物の最小化を促進するための技術開発と市民活動の展開を促す研究・実行プロジェクトである。そのため、広く産業界や市民層と協働し、資源の最大活用を行いながら、同時に廃棄物の排出削減を目指す研究事業。

(2) 平和とガバナンス分野〔Peace and Governance Category〕

永井道雄記念講演会（継続助成）

〔Michio Nagai Memorial Lecture Series (*ongoing support*)〕

本法人の創設者であり、国連大学の発展に尽力した故永井道雄氏の多大な功績を称え、今日的な問題とともに国連大学の役割や活動内容をテーマとした講演会であるが、06年度は、国連大学において実施されなかったため、助成はなかった。

2. 国連大学の研修活動等に対する助成〔Support for UNU research activities〕

国連大学グローバル・セミナー（継続助成）

〔UNU Global Seminars (*ongoing support*)〕

国連大学が行っている研修活動のうち、国内7地域及び韓国、ハワイなどで開催されるグローバル・セミナーは、毎年、幅広い観点から、国際平和と環境・開発の問題を取り上げてきた。このセミナーは、日本の若者も多く参加することから、本法人としても従前より強力に支援してきた。06年度は、そのうち湘南セッション及び沖縄セッションに対して支援した。

鳥瞰型環境学サマー・スクール（継続助成）

〔UNU Summer School for Bird's-eye View Experts on Environment (*ongoing support*)〕

国連大学の活動の主要テーマである環境問題に関し、主として大学院博士課程レベルを対象とした環境学・環境問題に関する専門研究者・実践専門家の養成を図る事業である。環境問題の今日性及び専門家養成の重要性に鑑み、継続的な支援をした。

国連大学高等研究所（IAS）研修活動（新規助成）

〔UNU Institute of Advanced Studies (IAS) research activities (*new support*)〕

国連大学が世界13カ国14地域に設置している研究・研修センターのうち、我が国におかれた研究・研修センターであることの重要性に鑑み、「高等研究所」(IAS / 東京・横浜)の行う能力開発プログラムに対し支援した。

UNU International Course（新規助成）

世界各国の大学院生および大学卒資格を持つ社会人を対象に、国連大学本部が2000年から実施している短期研修講座（6週間）。将来、国連機関や国際的NGOを含めた各種の国際的機関の職員、あるいは外交官を目指す人たちのために「人権」「環境問題」を含む4科目を開設し、これらの分野についての理論と実践の両面から見識を深めることを目的としている。講師は日本内外の学識者・研究者をはじめ、国連職員を含む実務担当者が担当。

3 . 国連大学の施設・整備に関する助成〔 Support for the enhancement of UNU facilities 〕
国連大学本部の施設維持特別助成（継続助成）

〔 UNU Centre facilities maintenance special support (*ongoing support*) 〕

国連大学本部の施設維持について支援した。

国連大学図書館図書購入費（継続助成）

〔 UNU Library Book Procurement Fund (*ongoing support*) 〕

国連大学図書館の蔵書の充実に資するため支援した。

4 . その他国連大学との協議により、国連大学の次の事業を支援した。これらはすべて新規助成である。

〔 Other necessary matters identified in consultations with UNU (*new support*) 〕

「平和と統治」プロジェクト〔 Project for “Peace and Governance ”〕

紛争の本質、原因、発生メカニズム、紛争に使われる手段、そして紛争がもたらす結果などを解明し、紛争の防止、処理、解決の方法を分析し、持続可能な平和とグッドガバナンス（正しい統治）の促進に寄与することを目指す。

ESD(環境と持続可能な開発プログラム)プロジェクト(1)

〔 ESD Project(1): Sustainable Land Management in Mountainous Region: Thailand, Lao PDR, and China (Yunnan Province) 〕

貧困の克服、環境の保全に悩む中国雲南省やミャンマー北部、タイ、ラオス、ベトナムの山岳地域の人々が持つ固有の知識や行動を政策に生かしながら、現地国や日本のパートナーと協力し、自然資源と人々の暮らしを守るための新しい知識を創り出す試み。

ESD(環境と持続可能な開発プログラム)プロジェクト(2)

〔 ESD Project(2): Mekong Basin Research Network(Mekong Net) 〕

メコン川流域研究ネットワーク(Mekong Net)は、国際的ネットワークを通じて、メコン流域の共同開発や水資源管理に役立つ科学的知識を提供し、また流域に関わる政策決定に役立つ知識や方策を提言。さらに周辺地域の貧困を軽減し、環境保全を強固にするための持続可能な水資源開発に関わる提言も行う。

国連大学からの委託事業〔 Services commissioned by UNU 〕

国連大学研修事業における諸費用の徴収事務（継続事務）

〔 Collection services for expenses of UNU training projects (*ongoing service*) 〕

国連大学が実施する事業の業務遂行の合理化を図る観点から、研修事業において、主として日本人参加者からの諸費用徴収にかかる事務について、国連大学からの委託を受託した。

国連大学への国民の関心を高め、支持を強化するための事業

〔 Programs to strengthen public interest and support for UNU 〕

国連大学の活動が世界の平和構築、持続可能な地球の実現に不可欠な活動であることについて広く国民の理解を得、幅広い国民各層が国連大学の活動に高い関心を寄せ、強力な支持が得られるよう、広報普及活動を積極的に推進した。

(1) 広報分野〔 Publicity Category 〕

広報用パンフレットの作成 (継続事業)

〔 Creation of publicity pamphlets (*ongoing support*) 〕

UI 戦略の一環として、国連大学本部および国連関係機関の許可のもとに、国連大学協会のロゴマークを新たに制定し、ホームページや各種パンフレットに掲載することによって、国連大学と本法人の協力関係を強調した。また、国連大学と本法人の活動内容をより具体的に伝えるよう、各種パンフレットの改定を行うとともに、英語版も制作し、積極的に頒布した。さらに、「国連大学協会ニュースレター」をリニューアルし、賛助会員を中心として、本協会の理事会やジュニアフェローションポジウムを開催内容等、具体的な情報提供に努めた。

ホームページのリニューアル (新規) 〔 Updates of jfUNU website (*new*) 〕

国連大学への国民の関心と支持を高めるためには、国連大学の活動をより広く一般国民に親しみの持てるものとして紹介し、より広く国民に普及させることが重要であるとの観点から、国連大学協会のホームページについて、抜本的な検討を加え、コンテンツを刷新しリニューアルを行った。また、ホームページによる情報提供を通じて、国民が本法人及び国連大学の主催事業へ参加できるよう「イベント」のページを特設した。

(2) 講演会・研修等分野〔 Lecture and Symposium Category 〕

グローバル・セミナー同窓会 (継続)

〔 Global Seminar Alumni Association (*ongoing*) 〕

国連大学主催のグローバル・セミナーが日本人学生による修了者を多く輩出していることに鑑み、それらの修了生を対象に、99 年より、本法人主催によるグローバル・セミナー同窓会を実施してきた。それらの修了生が相互に情報交換をし、修了後も継続的にそれぞれの活動に関する知識や情報を共有し、ネットワークの構築に資することができるよう、継続して実施することが肝要であるが、今年度は、の「jfUNU/UNU ジュニアフェロー・シンポジウム」の際に、併せて実施した。

jfUNU/UNU ジュニアフェロー・シンポジウムの開催 (新規)

〔 jfUNU/UNU Junior Fellows Symposium (*new*) 〕

国連大学は多様な能力開発コース (次世代リーダーの養成のための研修コース) を実施してきたが、それらの修了生たちのその後の活動状況を把握し、修了生たちが相互に情報交換と課題検討を行い、それぞれの今後の活動に資することができるよう、国連大学との共催で 12 月 14 日・15 日に「jfUNU/UNU ジュニアフェロー・シンポジウム」を開催した。国連大学本部が実施する 4 コースおよび国連大学高等研究所 (IAS) が主催する研修コースの修了生のうち、18 カ国から 74 名が参加した。なお、同シンポジウムでは緒方貞子 JICA 理事長 (元国連難民高等弁務官) が基調講

演を行った。

本法人の管理運営に関する事項〔Item on Administration of jfUNU〕

公益法人活動を活性化させるため、事務局体制を整備した（新規事項）。また、08年（平成20年）に予定されている新公益法人法の施行に伴う課題について検討を開始した。

以 上

別 表

2006 年度 寄附金収入及び国連大学への助成実績一覧

摘 要		金 額
寄附金収入	個人 3件 法人 21件(五十音順) アサヒビール株式会社、旭化成株式会社、 株式会社荏原製作所、株式会社沖縄海邦銀行、 株式会社沖縄銀行、沖縄電力株式会社、 オリオンビール株式会社、金秀グループ、 キッコーマン株式会社、ジェイティービー沖縄株式会社、 シマダヤ株式会社、株式会社島津製作所、 第一生命保険相互会社、財団法人凸版印刷三幸会、 那覇空港ビルディング株式会社、日産自動車株式会社、 有限会社熱帯資源植物研究所、東日本旅客鉄道株式会社、 前澤工業株式会社、丸正印刷株式会社、 株式会社琉球銀行	25,715,000 円
賛助会費収入	個人会員 174件 団体会員 1件	867,300 円
国連大学への助成		29,950,000 円
内 訳	・アジア沿岸水圏における環境監視と管理プロジェクト	16,645,000 円
	・ゼロ・エミッションフォーラム	1,923,750 円
	・鳥瞰型環境学サマー・スクール	1,950,000 円
	・国連大学グローバル・セミナー湘南セッション	2,300,000 円
	・国連大学グローバル・セミナー沖縄セッション	1,657,500 円
	・国連大学本部の施設維持特別助成	5,000,000 円
	・国連大学図書館図書購入費	50,000 円
	・「平和と統治」プロジェクト	80,000 円
	・ESD(環境と持続可能な開発プログラム)プロジェクト	103,750 円
	・ESD(環境と持続可能な開発プログラム)プロジェクト	80,000 円
	・UNU International Course	80,000 円
・国連大学高等研究所(IAS)研修活動	80,000 円	